

# わくわくドキドキならはらテクテク

2026. 4. 6 NO.1 ならはらの森なかの学舎



なら原っ子「あれ、たくさんの方がいるなあ。何をしているんだろう。」

なら原っ子「なんだか、見たことのある場所みたいだぞ。」

なら原っ子「あ！分かった。これは、なかの学舎の西の雑木林のあたりだ。」

モンタ博士「ピンポン。その通りだよ。」

なら原っ子「へえー。そうなんだ。ところで、何をしているのですか。」

モンタ博士「これはね、3月29日（日）に、『春の檜原 自然と史跡の観察会』というものがあってね、モンタ博士も参加させてもらったんだよ。」

なら原っ子「へえー。そうなんだ。ぼくも行けばよかったなあ。」

なら原っ子「私も参加したかったわ。それで、どんなことをしたのですか。」

モンタ博士「一本松古墳や鹿島古墳、さらに、湧き水のあった場所に行ったのさ。」

なら原っ子「古墳！おもしろそうですね。どこにあるんですか。」

なら原っ子「湧き水！へえー。そんな所があるんだ。行って見たかったなあ。」

モンタ博士「上の写真がね、その『松枝湧水地跡』（講師のＹさん命名）なんだよ。」

なら原っ子「え！ぼくらの、なかの学舎に『湧き水』があったなんて、すごいね。」

なら原っ子「水が流れていたなんて、おどろきだわ。」



なら原っ子「この場所も、どこかで見たことがあるような場所だね。」

モンタ博士「そうだよ。なかの学舎の少し南に、おうちの建っていない所があるだろう。

この場所は、昔、湧き水からの水が流れていて、川があったということだよ。さらに、次の写真も見てごらん。これも川の流れていた所だよ。黄色と緑色の矢印があるだろう。下にどこの場所か書いてあるよ。」



← 榎原小学校

← 榎原給水所

なら原っ子「この川というのは、浅川とちがうのですか。何という名前の川なの。」

モンタ博士「いい質問だね。この川は、榎原の人たちは、『大川』（皇国地誌には「内川」と記してある）と呼んでいたそうだよ。」

なら原っ子「なぜ、今ないのですか。」

モンタ博士「これまたいい質問だね。それはね、おうちがが建ったり、湧き水がへったり、水がよごれてきたので、埋め立てたそうだよ。」

なら原っ子「なるほど、そうなんですか。ところで、この湧き水を何に使ったのかな。」

モンタ博士「またまたいい質問をして、なかの学舎の子は、みんないい子だね。この水はね、お米を育てるために利用したんだよ。今の清川町あたりは、大きな水田がいっぱい広がっていたんだよ。」

なら原っ子「今の清川町というのは、なかの学舎からすぐの所ですね。」

モンタ博士「そうだよ。今はたくさんのおうちがあるけど、昔は水田だったんだね。」

なら原っ子「へえー。そうなんですか。広い田んぼだったということですね。」

モンタ博士「そうだよ。おうちができる前の清川町の写真を見せてあげよう。」



なら原っ子「とても広々としていますね。この写真はどうしたのですか。」

モンタ博士「清川会館という、清川町の会館にあったものをモンタ博士が撮影したのさ。」

なら原っ子「へえー。そうなんですか。ぼくたちのなかの学舎の周りには、いろいろな歴史があったんですね。ところで、古墳はどこにあるんですか。」

モンタ博士「そうだったね。一本松古墳は、なかの学舎のすぐ近くにあるんだよ。歩いて

も3分もかからないから、行って見てごらん。下の写真が一本松古墳だよ。  
40年くらい前まで、樹齢500年の松の木があったそうなんだ。写真の松は二代目なんだよ。」



なら原っ子「へえー。今度みんなで見に行きたいね。」

モンタ博士「それから、鹿島古墳というのにも近くにあってね、鹿島神社という所にあるんだ。どちらも平らになってしまったけど、古墳があったんだよ。」



**鹿島神社**

**この建物の裏に右写真のような  
所があり、これが古墳！**



なら原っ子「なかの学舎の周りには、歴史がいっぱいなんだ。おもしろくなってきたね。」

モンタ博士「今回は、メタセコイア化石群と、ハチオウジソウのことをお話ししよう。」